

## B 日程国語 マークシート問題 正答番号(90 点分)

	解答番号	解答欄					
B I	1	①	②	③	④	⑤	5 点
	2	①	②	③	④	⑤	5 点
	3	①	②	③	④	⑤	5 点
	4	①	②	③	④	⑤	5 点
	5	①	②	③	④	⑤	5 点
	6	①	②	③	④	⑤	5 点
	7	①	②	③	④	⑤	5 点
	8	①	②	③	④	⑤	2 点
	9	①	②	③	④	⑤	2 点
	10	①	②	③	④	⑤	3 点
	11	①	②	③	④	⑤	3 点
	12	①	②	③	④	⑤	3 点
B II	13	①	②	③	④	⑤	5 点
	14	①	②	③	④	⑤	5 点
	15	①	②	③	④	⑤	5 点
	16	①	②	③	④	⑤	5 点
	17	①	②	③	④	⑤	5 点
	18	①	②	③	④	⑤	5 点
	19	①	②	③	④	⑤	2 点
	20	①	②	③	④	⑤	2 点
	21	①	②	③	④	⑤	2 点
	22	①	②	③	④	⑤	3 点
	23	①	②	③	④	⑤	3 点
	24	①	②	③	④	⑤	3 点

## B日程国語 記述問題 解答例(10点分)

【I】 問七 「教室」・「主体化」・「責任」 五〇字以内

- (1) 教室という空間を設定するだけでは、主体化への働きかけはできず、先生の責任が曖昧になる(四二字)から。  
(2) 教室という空間の設定だけで生徒たちの自主性に任せると、先生の責任は曖昧になり、主体化もできない(四七字)から。

【採点基準】※I以外は、共通ルール。

- 問題に対して文意が通っていない↓0点
- 指定した語句が書かれていない↓0点

I ① 「教室という空間を設定するだけ」と同じ意味の内容が書かれている↓2点

② 「主体化への働きかけ」と同じ意味の内容が書かれている↓2点

③ 「先生の責任が曖昧になる」と同じ意味の内容が書かれている↓1点

II 文末指示との接続が適切ではない↓1点減点 ※－(マイナス) 1と記入

III 誤字脱字↓その都度1点減点 ※値に「－(マイナス)」をつける

IV IからIIIの合計点を記入する。

## Ⅱ 問二 「解雇」 二〇字以内

- (1) 企業は 原則として従業員を解雇できないという (十八字) こと。  
(2) 企業は いちど雇えば原則その人を解雇しない (十七字) こと。

### 【正答根拠】

#### 問二 企業は「原則として従業員を解雇できないという」こと

傍線部Bの直前を見ると、日本企業の制度では「採用された人は引退するまでその企業の終身の構成員になる」とある。また、傍線部の少し後ろをみると「ある従業員が役立たないと判断しても、解雇することはできず、その従業員の地位の範囲内で、ひとつの職務から別の職務へと配置転換し、最終的には役には立たないとしても、少なくとも害にならない職務を見つけるしかない」とある。つまり、ひとたび企業が従業員を採用したら、従業員の能力いかに関わらず、原則、企業はその者を雇い続けなければならない (簡単に解雇できない)、これを傍線部Bでは「企業は事実上、その人の能力が不足していると判断する権利を放棄している」と言い換えている。よって、これを出題形式に当てはめると、企業は「原則として従業員を解雇できないという」こと (18字) が正答となる。ほかに、企業は「いちど雇えば原則その人を解雇しない」こと (17字) など、従業員のことを傍線部の「その人」として記述しても正答となる。